

1. 基本情報

- (1) 国名：インド
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ラジャスタン州
- (3) 案件名：ラジャスタン州水資源セクター・生計向上計画 (Rajasthan Water Sector Livelihood Improvement Project)
- (4) 事業の要約：本事業は、ラジャスタン州における既存の中・小規模灌漑施設の改修、小規模点滴灌漑等の灌漑方法や営農技術の指導、及び水利組合や普及員の能力強化等を行うことにより、農家の農業生産の増加及び所得向上を図り、もって同地域の貧困削減に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における農業・灌漑セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
インドでは、全労働人口の半分以上が農業部門に従事し、国土面積の約 46%が農地として利用されている。農業生産が国内総生産に占める割合は、2013/14 年において約 14%であり、近年減少傾向にあるが、依然として人口の約 7 割近くが農村部に居住し、全労働人口の約半数が農業に従事している。急激な人口増加と貧困問題を抱えるインドにおいて、農業は食糧安全保障や雇用確保及び生計向上を支えており、インド政府の最重点セクターである。現在、農業・灌漑セクターにおいては、州政府の資金不足による新規灌漑設備の開発遅延、既存設備の老朽化、水資源局・水利組合の能力不足、森林荒廃による保水力低下など、複合的な問題を抱えており、農業・農村の活性化に向けた灌漑施設等の農業インフラ整備が喫緊の課題となっている。

インド政府の第 12 次 5 か年計画（2012 年 4 月～2017 年 3 月）では、平均 GDP 実質成長率目標を 8%としており、農業部門の成長率目標は 4%に定められている。この目標実現のため、農業セクターにおける重要課題として、資源の有効活用、持続可能な技術普及、気候変動への対応及び生産性向上が挙げられており、特に水資源の有効利用が不可欠とされている。加えて、灌漑事業による生産拡大は、農民所得の向上、ひいては貧困の削減に寄与することから、同計画の中でも大きな柱の一つとなっており、水資源の効率的利用に基づく灌漑農業の生産性向上が求められている。

インド北西部に位置するラジャスタン州は、農業人口が全労働人口の 62%を占め、農業及びその関連事業は同州の GDP の 21%を占める。同州は州西部にタール砂漠を持ち、年間降雨量がインド全国平均の 1,083mm よりも少ない 584mm（特に西部の乾燥地帯では 322mm）しかなく、水資源に乏しい。加えて、同州の全作付面積に対する灌漑率は 35%とインド平均の 45%より低い水準であり、限られた水資源の更なる効率的利用による農業生産の拡大が求められている。

(2) 農業セクター／インドに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

我が国の対インド事業展開計画（2011 年 6 月）では、重点分野を①「経済インフラ整備を通じた持続的経済成長の支援」、②「貧困削減に向けた支援」、及び③「環境・気候変動対策への支援」としており、本事業は②「貧困削減に向けた支援」の開発課

題「農村の生計向上」に合致する。

(3) 他の援助機関の対応

世界銀行は、ラジャスタン州にて「ラジャスタン州水資源セクター復興事業」を実施しており灌漑施設の改修事業、能力強化支援及び灌漑・水資源セクター改革に長期的に取り組んでいるほか、「ラジャスタン州村落部生計向上プロジェクト」等の実施を通じて農村部における生計向上支援も行っている。一方、アジア開発銀行も、チャッティスガル州で、灌漑施設のサービス向上、営農及び水管理強化を通じた生計向上及び貧困削減支援を行っている。

(4) 本事業を実施する意義

本事業は、ラジャスタン州の更なる効率的な水資源利用、農業生産の増加及び所得向上を図るものであり、インド政府の開発政策及び我が国の援助方針とも合致していることから、本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本事業は、ラジャスタン州において既存の中・小規模灌漑施設の改修、小規模点滴灌漑等の灌漑方法や営農技術の指導、及び水利組合や普及員の能力強化等を行うことにより、農家の農業生産の増加及び所得向上を図り、もって同地域の貧困削減に寄与するもの。

② 事業内容

- 1) 中規模・小規模灌漑施設の改修工事（調達方式：LCB）
- 2) 技術支援（営農指導、水利組合及び政府職員の能力強化、点滴灌漑の導入等）（調達方式：LCB）
- 3) コンサルティング・サービス（調達監理、施工管理等）（調達方式：ショートリスト方式）

③ 他の JICA 事業との関係

対インド円借款「ラジャスタン州小規模灌漑改善計画」（2005 年～2015 年）では、州内に点在する既存の小規模灌漑施設 322 箇所を改修し、改修後の維持管理を担えるよう NGO と連携しつつ、水利組合を形成する農民や関連政府職員の能力強化を実施してきた。その成果として、灌漑率の向上とともに、水利組合への権限移譲や組合自身による水利費徴収・運営が進められてきた。同事業の成果を発展させるため、本事業では中規模灌漑施設の改修による、より広域での効率的な水資源利用を目指しつつ、また点滴灌漑等の灌漑方法や営農技術の導入を通じた作物の多様化及び生計向上を図る。

(2) 事業実施体制

- ① 借入人：インド大統領（President of India）
- ② 事業実施機関／実施体制：ラジャスタン州水資源局（Water Resource Department, Government of Rajasthan）
- ③ 他機関との連携・役割分担：未定（協力準備調査にて詳細確認）
- ④ 運営／維持管理体制：対インド円借款「ラジャスタン州小規模灌漑改善計画」で形成した WRD を中心とする Project Management Unit が現在も機能しており、本

事業においても中心的な役割を果たすことが期待されている。また、本事業における更なる体制強化を図る。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ☐A ☐B ☐C ☒FI

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上、JICAの融資承諾前にサブプロジェクトが特定できず、かつそのようなサブプロジェクトが環境への影響をもつことが想定されるため。

(4) 横断的事項：協力準備調査にて詳細確認

(5) ジェンダー分類：協力準備調査にてジェンダー主流化ニーズを確認

(6) その他特記事項：なし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

対インド円借款「コラブ上流灌漑計画」の事後評価等から、灌漑用水の充当率を向上させるためには、畑作物の振興が選択肢として考えられるとの教訓が得られている。加えて、将来的に水利組合への権限移譲を促進していく上では、受益者のオーナーシップを高めるため、水利組合自身による水利費徴収・運営の仕組み作りが有効なアプローチであるとの教訓が得られている。

本事業では、上記教訓を活かし、点滴灌漑等の灌漑・営農技術の導入による畑作物の振興や、住民参加型水資源管理による持続可能な水資源利用を目指した水利組合の活発化及び能力強化を図る予定。

以 上

[別添資料] 地図

[別添資料]

インド全国地図



ラジャスタン州水資源・生計向上改善計画 対象地域地図（ラジャスタン州全域）

